

中部テネシー日本語補習校 (中部テネシー補習授業校) 校歌

一

朝の光り浴びて 向かうホールに
今日も響く友達の 元気な笑い声
七日に一度だけ 弾む言葉に
眠たさも忘れていく 空は青く澄んで
あふれる気持ちを 伝えきれずに
時には想いが 海を渡るけど
今日もまた ここにいる
手を繋げば誰もが皆同じ仲間さ
明日へと 学びあう
夢と愛があふれる場所テネシー補習校

二

白く咲きみだれる 花の香に
心までが洗われる 他人にやさしくなれる
金曜日の夜は 遊べないけど
明日が待ちどおしくて なかなか眠れない
別れ行く友に 涙こらえて
さよなら言わずに 高く手を振った
いつの日か 輝こう
この世界のどこかでまた出会える日まで
いつまでも 忘れない
君の笑顔輝く場所テネシー補習校

タップして中部テネシー日本語補習校の校歌を聞いてみよう
<https://drive.google.com/file/d/1pQ3gzpefgs05AGm2TKfVWM3x0AHaSrZ/view>



2021年8月7日、1年半ぶりの一斉登校授業の日の昼休み。この2週間後からデルタ株による感染者急増によりふたたびオンライン授業に戻った。

祖国を離れ、
集い学ぶ子どもたちの
素朴な気持ちが校歌に

本校は一九八三年十月にアメリカ・テネシー州マーフリーズボロ市にあるミドルテネシー州立大学の校舎(ペックホール)を借用して開校し、今年度創立四十周年を迎える。当地に進出していた日系の自動車製造関連企業の駐在員のかたがたの補習校開校への熱い思いは、いまも本校運営の基盤となり、綿々と受け継がれている。

校歌は、九五年に制定された。校歌づくりの声が上がってから完成するまで二年の年月がかかっている。特筆すべきはその

全過程に当時の教員はもちろん、運営委員や児童生徒、保護者など本校関係者のほとんどがかかわったことである。当時の記録を読むと、校歌制定にかける熱い思いがいまも伝わってくる。

当時、補習授業校で校歌を持っている学校はそれほど多くなかったようである。本校の校歌を聞

き、ぜひ自分の学校でも校歌を制定したいと動かれた補習授業校がいくつかあったと聞いている。

そして本校の校歌ほど、初めて聞く人の耳にメロディーが残り、歌詞が心に訴えるものもそう多くはないと確信している。その理由は、歌詞のなかに「日本を離れ異文化のなかで暮らす子どもたちの心の葛藤」と「補習授業校での出会いと別れの素晴らしさ」、そして何より「補習校大好き」という思いが素朴なことはでつつられているからである。当時の資料には、生徒主体の「校歌作成委員会」が全校児童生徒から寄せられたことばや思いを見事にまとめ上げた経緯が記されている。

耳にするたびに熱いものが込み上げてくる「あふれる気持ちを伝えきれずに 時には想いが海を渡るけど」のフレーズ。コロナ禍で二年間続いたオンライン授業の関係で、集って歌えなかったのが非常に残念であったが、昨年度からは子どもたちが一堂に会し、補習授業校の素晴らしさを実感しながらこの歌詞を口にすることができている。この幸せが続くことを祈るばかりである。